

長期継続 (資産形成&教育コラム) 「後編」

前編の最後に後編の資産形成編のイントロをお伝えしました。内容は、「投資家ウォーレン・バフェットは株式投資において『株式市場はせっかちな人から忍耐強い人へと富を移す場所だ』とまさに長期継続・長期投資戦略の際に語っています。」というものでした。投資の常識というか、よく言われていることで、「安く買って、高く売る」という考え方があります。それはそうだろうと一見思いますし、皆さんもそうだと思っていませんか？これも一つの投資戦略だとは思いますが、今回のテーマでもある長期継続という考え方を皆さんに理解していただきたいので、一つの言葉をお伝えしたいと思います。「買う」ではなく「保有する」、「売る」ではなく「保有し続ける」。つまり、忍耐強い投資こそ富を築く正攻法だと再認識・再定義する必要があると思います。ちなみに、「安く買って、高く売る」は過去のチャートなどを見れば、いくらでもそのタイミングだったり、ここで買ってここで売れば良いんだよ、だから今が買いですとか、今が売りですとか言う人がそれなりに正しく思えてしまいます。お分かりですよ、あくまでも過去のチャートを見ればです。私たちの投資は今から将来に向けて行うものなので、過去から学ぶことはとても重要ですが、それは回答

を見てこれが正しい答えだよと言ってるだけだと個人的には思いますし、それよりも将来のチャート・値動きは、答えの分からない問題を試行錯誤しながら必死に且つ忍耐強く長期で取り組む中で常に学ぶ状況をつくる、つまり保有し続けることの方が現実的で実用的だと私は結論付けています。

長期継続・長期保有が大切な理由をもう1つ、2025年10月下旬日本の総理大臣に紆余曲折ありながらも女性初の高市早苗衆議院議員が就任しました。さまざまな要因が複雑に絡み合って決まるものなので、一概には言えませんが株価は急激かつ順調に上昇しています。テレビの街頭インタビューを見てみると、必ず出てくるコメントとして「株価は上がっていますが、生活が良くなっている実感は全くありませんね。」のようなニュースを見ます。何故、このような事象や発言が多いのかの理由は大きく2つあります。1つはその方が株式を保有していないから。そしてもう1つは株価は先行指数と言って、将来の期待値に対する数値だから。では、1つずつ出来るだけ簡潔に解説していきます。

まず、株式を保有していないからは、言葉そのまま、保有していないものの価格・価値がいくら上がろうが、その方には全く影響を与えないということです。現状持っていないのか、過去は保有していたが、頃合いを見て売却してしまった

かは分かりませんが、どちらにしろ現状保有していないとその恩恵を受けることはありません。株価と同様、金価格も上昇を続けていますが、やはり保有していない人には全く関係ありません。ここで現物資産の金や不動産と、株式や投資信託のような無形の金融資産についての使い勝手については後程お伝えさせていただくとして、保有し続ける中で必要な時に現金化し使うことが容易な資産かどうか、保有し続けられるかどうかの大きな判断になると思います。

次に株価は先行指数だからとは、世の中の経済状況を表す指標は大きく3つ、先行指数・一致指数・遅行指数に分類されます。1つ目の先行指数は「将来（数か月先）の景気の動きを予測するため」、2つ目の一致指数は「現在の景気の状態を把握するため」、3つ目の遅行指数は「景気の事後的（数か月から半年程度後）な確認や転換点の判断に用いるため」。先行指数の代表例は『東証株価指数（つまり株価）』『新設住宅着工床面積』など。一致指数の代表例は『有効求人倍率』『所定外労働時間指数』『営業利益』など。遅行指数の代表例は『完全失業率』『家計消費支出』など。つまり、株価が上がっている状況でインタビューしてもその指標が世の中に反映するのは数か月先、あるいは単なる将来への期待値のようなものなので、もともと実感することはないといった論理です。そういった意味では『完全失業率』を参考にすると正に今、正に仕事を求めている人が仕事について収入を得て生活している状況を表しているので、一致指数を参考にイ

インタビューすればチグハグなコメントにはなりにくいと思いますし『家計消費支出』のような遅行指数を参考にインタビューすれば数か月前までの自身の生活に根差したコメントが聞き出せると思います。長期継続とは少々脱線した内容になっているように感じますが、株価とは先行指数であり、株価の上下は私たちの生活にその時点では反映しないことを理解し、(長期継続・長期) 保有している人たちだけがその影響(恩恵や損失)を享受すると再認識することで、生活者代表のようなテレビのコメントに振り回されないようにすることが重要だと思います。

最後に、長期保有こそが資産形成において、安心かつ安定的に長期に渡って恩恵を受けることが出来る考え方だと認識していただくために、長期保有している資産をどのように実際の生活を豊かにするために活用出来るかをお伝えします。保有ではなく、売り買いをすると例えば 100 万円(指数 100) が 120 万円(指数 120) になった際に売却すると 20 万円の利益が確定します。そして同時に原資の 100 万円(指数 120) を再び投資、次に 120 万円(指数 144) になるには基準の指数 120 が 20%上昇して指数 144 になった時です。売り買いをせず、単純に保有していれば原資の 100 万円(指数 100) は 144 万円(指数 144) になります。もう少し繰り返してみます。指数 144 の時に再び売却し 20

万円の利益を確定。再び原資の 100 万円（指数 144）を投資、次に 120 万円になるには基準の指数 144 が 20%上昇して指数 172.8 になった時です。売り買いをせず、保有していれば原資の 100 万円（指数 100）は 172.8 万円です。一回目の売却では 40 万円と 44 万円の差でしたが、二回目の売却では 60 万円と 72.8 万円の差になります。これを長期で保有した場合はどれほどの差になるかはなんとなく想像していただけたと思います。ただ、ここで問題と言うか、売却して利確しないと実際には使えないじゃないかとか指摘を受けるところですが、長期保有で増えた含み益のみを使うことは可能です。売買を繰り返すのではなく、保有したまま含み益のうち必要な資金だけを受け取って使い、残りはそのまま保有、長期で保有しながら、長期継続の中でず〜っとその恩恵を受け続けることも可能です。ちなみに、売買（安く買って高く売る）する際には一般的にその都度手数料が発生しますし、現物資産の不動産などはなかなか直ぐに現金化出来るとは限らないので、その辺りも注意が必要です。株式や投資信託、少々専門的になりますが E T F（上場投資信託）や R E I T（不動産投資信託）のような市場があり、比較的容易に売買が出来る金融商品の方が保有したあと、使い勝手がよいと思います。

もっともオーソドックスな投資方法として言われている「長期・積み立て・

分散」の今回は特に長期、長期継続・長期保有についてお伝えしてきました。忍耐強く長期継続・長期保有は日本人には比較的向いている投資方法だと思いますが、周りの声やお金そのものは人の気持ち・感情をもの凄い力で揺さぶり、始めにイントロ的にお伝えしたウォーレン・バフェットの言葉通り、元々は忍耐強い性格の人でも、せっかちで短絡的になってしまい、結果富の移動は後者から前者へと移って行ってしまうと、過去の個人的な経験からも実感しています。

前編の教育も本編の資産もどちらも忍耐強く、長期で継続・保有することが有効か何となくは伝わったと思いますが、恐らく今までご自身が長期で続けてきた何かを振り返ってみると、その本質というか効果というか、どれほど難しくどれほど自身の骨となり血となってきたか、実感していただけたと思います。今後も長期でのお付き合いを通じて、皆さんの資産形成のお役に立ち、教育についても適切なアドバイスが出来るよう、どちらも長期で勉強し続けていきますので、引き続きよろしく願いいたします。

当資料の説明におけるシミュレーションのいかなる内容も、将来の運用成果を予測し、保障するものではありません。
※市場価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。

P.S.先日久しぶりに業界試験、証券外務員試験を受験し（正答率 90%）で合格しました。お役に立てる範囲や知識が増えました。

ソニー生命保険(株) 大分支社
〒 870-0029 大分市高砂町 2-50
オアシスひろば 21 9階
TEL 097-532-9200
ライフプランナー 山田新悟